

大阪のホテル激増

昨年度 計画届け出56倍141件

訪日客増え

大阪市でホテルなど宿泊施設の建設計画が急増し、2015年度の計画の届け出件数が前年度の約5・6倍となったことが市への取材で分かった。大阪では中国人など訪日外国人客の増加に伴い、客室の稼働率が高水準で推移。旺盛な観光需要を取り込もうとする企業の活発な投資が集中している。

15年度末時点で営業許可を受けている大阪市内の宿泊施設は836で、足元の開発計画の激増ぶりが分かる。

計画の届け出が必要な施設にはホテルのほか、旅館やゲストハウスなどが含まれる。届け出から開業までの期間は施設の規模などによって異なり、1年以内のケースもあれば、大規模な例では数年かかるという。

観光庁によると、15年の都道府県別でみた宿泊施設の客室稼働率は大阪府が84・8%で全国トップ。格安航空会社（LCC）の増便により関西空港の利用客も右肩上がりです。「大阪には泊まれず、兵庫県や奈良

大阪市によると、宿泊施設の建設の計画件数は13年度が17件、14年度が25件だったが、15年度は前年度比約5・6倍の141件へと一気に増えた。16年度も4～7月の4カ月間で計111件と、15年度を上回る勢いだ。

大阪市の宿泊施設
建設計画件数



県でホテルを探す人も多い」（業界関係者）のが現状だ。

大阪は心斎橋や難波の繁華街、大阪城など外国人に人気の高い観光地が多数あり、関西の観光周遊の拠点としても宿泊需要が大きい。

政府は15年に過去最多の1974万人に達した訪日客を20年に4千万人へ増やす目標を掲げ、観光戦略を強化している。高級品などを大量に購入する「爆買い」は沈静化しているが、訪日客は今後も拡大が見込まれる。

食事をしながら景色が楽しめるのが売り。3両編成の真ん中の2号車にバーカウンスターを備え、沿線の特産品を使ったデザートやお酒など30種類以上のメニューが味わえる。草張りのソファでくつろぐこともできる。

車体は濃紺を基調に金色のエンブレムをあしらって高級感を演出した。座席は1号車と3号車の全席指定。

青の交響曲は9月10日から1日2往復で運行する。大阪阿部野橋―吉野間が特急料金など込みで大人1690円、食事は別料金となる。片道の所要時間は約1時間20分。定員は65人。

沿線には寺社仏閣や古墳、桜の名所として知られる吉野山が広がる。近鉄は年間を通して誘客につなげたい考えだ。